

今後のスケジュールについて

○第4回救急医療部会(救急医療検討会議)

(9月上旬ごろ予定(日程は今後調整))

<内容>

これまでの議論とプレゼンテーションの内容などをもとに、現在救命救急センターが抱えている課題を整理し、新たな救命救急センターが担うべき機能の大枠について整理

○第5回救急医療部会(救急医療検討会議)

(10月上旬ごろ予定(日程は今後調整))

<内容>

以下の2つの医療機関から救急の受入れや人員の充足状況、どのような機能を担っていくかなどについてプレゼンテーションを行い、指定の是非について議論

- ・さいたま市立病院 (今年度中の指定を希望)

- ・上尾中央総合病院 (今年度中の指定を希望)

(参考) 国立埼玉病院(来年度以降の指定を希望)

第3次救急の現状と課題（未定稿）

これまでの議論及び各救命救急センターからの発表を踏まえた第3次救急の現状と課題のあらましについて ※第2回会議終了時点の仮整理

- 各救命救急センターの努力と創意工夫により、現状の医療資源の中でそれぞれ最大限の患者受入を行っている一方、働き方改革などの関係から体制整備が困難になってきている。
- 各救命救急センターで強い部分と弱い部分があり、それぞれがサポート（カバー）し合う必要がある。
- 3次救急の運営と両立する形で実施されている2次救急の患者受入れ（6号基準締結病院については、6号基準に基づく患者受入れ）についての負担も大きい。
- 各救命救急センターにおいて、転院搬送も含め広域的な患者の受入れを行っているが、今後も圏域を超えた受入れや救命救急センターが整備されていない医療圏の体制整備について留意していく必要がある。
- ドクターヘリとの適切な役割分担の下で、ドクターカーの運行拡大により広域的な救命救急体制の充実を図ることが可能である。
- 院内の体制又は近年の患者動向により、循環器疾患や外傷等について患者受入れに影響が生じている場合がある。